

募集

医師
看護師
ヘルパー

健友会 電話 03-3387-3051

健友

PFAS相談外来のいま 昭島相互診療所の取り組み



昭島相互診療所 窓で大きくアピール

有機フッ素化合物PFASの汚染が全国で問題になっていきます。PFASは水や土壌などを介して体内に入ると、排出しにくいのが特徴です。PFASによる特別な疾患は確認されていませんが、がんなどの健康リスクをもたらすことがわかってきます。PFAS汚染と向き合い、相談外来に取り組み昭島相互診療所(民医連・健生会)をたずねました。

約4割が「健康被害の恐れ」

昭島市は米軍横田基地の南側に位置します。横田基地でPFASを含む泡消火剤の漏出が起きたと報じられると、健生会には住民や地域団体とともに健康被害の調査を実施。京都大学と連携し、多摩地域で血液検査を行いました。その結果、昭島市在住50人のうち19人(38%)のPFAS血中濃度が、「健康被害の恐れがある」という米国の指

外来は「普段どおり」

標準値(20ng/ml)を上回っていました。

PFASによる慢性疾患のリスクや体の状態を知ってもらいたい。汚染の実態を目的にたりにした昭島相互診療所では、PFAS相談外来の開設を検討。病体生理研究所が機材を導入し、血液検査の体制を整えると、昨年5月から外来を始めました。友の会も呼びかけに協力し、約10カ月で100人を超える患者さんが血液検査を受けています。

西川智子看護師長は、



PFAS相談外来のながれ

1 検診受付：予約不要・当日受付可
問診と採血

↓ 採血を病体生理研究所で分析(約5週間)

2 検査結果説明：予約制
検査結果について説明

PFAS血中濃度が高かった人は…

- 3 内科 保険診療
- 一部のPFASに除去効果のある浄水器の設置をすすめる(PFASフリーの生活)
 - 必要な人はエコー、CT、甲状腺の検査、追加の採血などをおこなう
 - 高齢者で数値の高い人は、家族(子どもや孫、若者)の検査もすすめる

【PFASの主な健康影響】

ワクチンに対する反応の低下、脂質異常症、幼児・胎児の成長の低下、甲状腺疾患、潰瘍性大腸炎、肝障害、腎臓がん、精巣がん、流産リスクの増加など

PFASガイドブック学習資料(社会医療法人社団健生会PFAS専門委員会)より編集部作成

健康を守る運動を

定しましたが、日本は50ng/lという高い数値のまま規制する方向で議論が進んでいるためです。

PFAS汚染の対策として、①米軍基地などの汚染源をなくす②子どものPFASの血中濃度を2ng/ml以下にする③汚染されていない水を取り戻す―が必要と大山医師は提言します。

その上で、「水道水と血液のPFAS濃度の調査を全国規模ですべきです。国が全国の病院から収集している診療データと照らし合わせ、PFASの汚染地域で多い疾患は何かを抽出し、相互の関係性を分析できれば、ガイドラインを策定できるでしょう」と指摘。健康を守るためには、私たち当事者による運動も必要とよびかけています。(編集部 石田・遊佐)

まずは水の規制

東京都は横田基地周辺の井戸水からの取水を停止していますが、昭島市は独自で深層地下水をくみ上げ、住民に給水しています。大山医師はPFAS汚染の経路として市の水道水に着目します。外来開設時に発足した

ただいま準備中

中野共立診療所のPFAS相談外来

大山美宏医師は、元中野共立病院院長で、現在も中野共立診療所で診察を行っています。

中野共立診療所ではPFAS相談外来の開設を検討、準備中です。詳細が決まり次第、みなさまにご案内いたします。

わたし

全日本民医連の評議委員会の方針では「ケアの倫理」を深めることが提起されています。ケアとは人間が生きていく上で必要なニーズを満たす実践です。人は誰でも「脆弱性」を抱え、他者に依存し、他者のケアを必要とする存在です。ケアの場面では、ケアの受け手と担い手の間に力の差が生まれ、軋轢や暴力に発展しがちです。担い手が支配や暴力に訴えないようにする努力を「ケアの倫理」は強く求めます。看護の現場でも、よかれと思ってのケアが、すれ違いを生むことがあります。受け手は「麻痺があってできないから、朝起きたらテレビをつけてほしい」。担い手は「早朝は職員が少ないから、日中にテレビをつけよう」。小さなすれ違いが、大きなすれ違い。支配・暴力にならないよう、受け手の思いから出発することが肝要です。ケアの実践で重要なのは、一人ひとりの尊厳が守られ、かけがえのない存在として、大切にされることです。(渡)

困っている人へ支援の手を

15年目を迎えた「なんでも相談会」

毎月第4木曜日の夕方、中野駅北口広場で「なんでも相談会」が行われているのをご存じでしょうか。健友会の有志が始めた取り組みで、今年3月で開始から15年、151回を数えました。相談会の発足から関わってきた実行委員会メンバーの松本明彦さん（経理部部长）と、入職時から参加している岡崎志歩さん（医学生室主任）を取材しました。

年越し派遣村、タクシー運転手の声

松本明彦さんは、リーマン・ショックの時の年越し派遣村が、なんでも相談会を始めるきっかけだったと振り返ります。「健友会からもボランティアで自主的に参加した医師や看護師がいたと後から知り、えらいなど率直に思いました」



岡崎さん(左)と松本さん

「病院の中で待っているだけではだめだと思いましたが、2つの出来事が繋がって、常々抱いていた思いが揺さぶられ、突き動かされました」

テントには、中野共立病院

医師や看護師の中にも「街頭相談やりたいね」という声があり、誰かがやろうと言えはできるのでは、と機運を感じた松本さん。実行委員会を立ち上げ、2010年10月、第1回の開催にこぎ着けます。

「今は定期的に実施できていますが、当初は試行錯誤の連続。駅から少し離れたところで実施し

無差別・平等の初心に帰る

通りがかりの医師が「おもしろいことをする病院だな」とスタッフに加わり、その後、健友会で働くことになったケースもあります。

事務職の岡崎志歩さんもその一人。「民医連らしい活動をしている法人で働きたいと考えていた

ので、相談会は大きな志望理由ですね。普段は業務で一杯ですが、参加すると、無差別・平等の初心に帰れます」と話します。法律事務所や労働組合



150回を記念して集合写真

困りごととは複合的

新型コロナウイルス感染症の流行で一時は中止していましたが、安全な体制を整え、徐々に再開しました。最近SNSも使って開催を告知。1回の開催で10件以上の相談に応じています。相談者の中には、中野区外から時間をかけて来る人や、何度も通う人も。話を聴いてもらうことで、気持ちや考えを整理し、次のステップに進む人もいます。

を設けています。最近の傾向について岡崎さんは「労働と生活な

ど、専門的で複合的な相談内容になっていきます。相談者はどこで相談したらよいかかわからなくて、ここにたどり着いたのでは」と指摘します。

松本さんは「相談は深刻化しており、今後も活動の維持、継続が求められています。ここだけでは解決できない問題を行政に届け、世の中が少しでもよくなる方向に進めば」と希望を込めて取り組み続けています。

医療相談をするうちに、相談者が抱える本質的な課題が明らかになったケースもあります。相談員が書く記録用紙には生活保護申請の有無の欄

(編集部 石田・遊佐)

つながり & つなぐ 病院・診療所・友の会

5年ぶりのお花見

天沼健康友の会

妙正寺川の永久橋付近で3月31日にお花見をしました。診療所単独では5年ぶりで13人が参加しました。当日は曇りで気温10度。とても寒かったので、歌ったり、体を動かして温まりました。2時間ほどの交流でしたが、手作りのちらし寿司・煮物・煮卵・お菓子、リンゴと楽しいひと時でした。(谷中)



合宿に初めて参加

桜山健康友の会

中杉友の会の合宿に初めて参加。菅井専務理事から地域医療を守る課題、6次長計のポイント、PFASの話聞いて領いたり、首をかしげたりでした。グループ討議では桜山の茶話会のことや、仲間増やしのことなどで盛り上がりがありました。とても良い時間を過ごしました。(山江)



寸劇で大爆笑

西荻健康友の会

2月に開かれた新年会に30人が参加。城南保健生協職員の横山さんのバンド「フェアリード」に出演していただきました。みんなで声を出して歌い、横山さんとの掛け合いに笑いが絶えませんでした。友の会の寸劇「花子さん」も大爆笑でした。(渡邊)



健康講座を開催

かわしま健康友の会

「健康診断結果の本当の見方」と題した健康講座を2月19日に催しました。講師は副所長の米田医師。診療所待合室に入りきらないほどの参加があり、内容も大変好評でした。(窪田)



すずかけの小道

えこ・ぬま健康友の会

3月23日、桜が咲いていることを期待して新宿御苑へ。残念でした。1週間早かったです。すずか

連載 3

認知症多職種チーム

「心地よい存在」を目指す

～当事者とのかわりを通して～

看護師／オレンジカフェボランティア 小林はるみ

認知症の方は歩んでき... 院が難しくなると、1週間はなく料理も、とお願... 間分の処方のために職員... 電話をかけて、通院を... 促すように。介護認定も... 受けてもらい、訪問看護... とヘルパーの援助で内服... 管理を始めました。

居酒屋には行くけれど

患者のAさんは一人暮らしの女性。定期的な通院には出かけます。私たちが店主にお酒ばかりで

話を聴いて密にかかわる

Aさんはだんだん、自分で食事をしなくなり... した。でも、常連の居酒屋には出かけます。私たちが店主にお酒ばかりで

恐れずに手をのばす

もし、認知機能が欠けていても、いろいろな人に囲まれて、穏やかに過ごせたらと願っています。



も困難になり、特別養護老人ホームに入所しました。Aさんはアルツハイマー型の認知症で、認知機能のいろいろな部分が欠けていくようでしたが、自宅から診療所への道順は最後まで覚えていました。Aさんは、自分なりの人生を自分の力で生き抜いたと感じています。



人

言葉と向き合って

中野共立健康友の会 朗読サークル講師 盡田 守伸さん



朗読サークルのみなさんと一緒に

お芝居、ダンス、振りは、出演者が足りない... 声もかかかった高校演劇から。死刑囚が処刑の日を迎えるまでの一週間の描いたオリジナル作品でした。その後、社会人を経て演劇集団円の研究所に入りまし

つながり & つなぐ 病院・診療所・友の会

けの並木道の下、差し入れの花より団子と昼食。周りを見渡すと、なんと素敵な景色。いままで何度か来ましたが初めての光景で、異国にいるようでした。(粉川)



2025年3月新宿御苑で、幹掛の並木道

善福寺川でお花見

桃井健康友の会

3月28日、朝方の雨も上がってうららかな日となりました。満開まであと少しの桜の下、川沿いをゆっくり散歩。散歩の後は、都営住宅の集会所でお弁当に舌づつみを打ち、和菓子とお茶で話に花が咲きました。(遊佐)



立派な花を咲かせました

ももその健康友の会

1997年の発足当初から参加していた「中野の桃園に桃の花をいっぱい咲かせよう会」(通称・桃の仲間)。残念なことに長い歴史に幕を閉じました。今年も診療所



の玄関前にある桃の木は立派な花を咲かせました。(中西)

頼れる2人にバトンタッチ

中野共立健康友の会

診療所は4月から笹本澄子外来看護師長と小田嶋理恵子管理師長が現場の要に。前任の松本亜矢子管理師長は桜山診療所へ。1世代交代です。二人でアイデアを出し合って、診療所を盛り立ててほしい」とエール。(渡辺)



盛りだくさんの新春のつどい

やまと健康友の会

2月19日、新春のつどいを開催。グループごとに自己紹介、転ばん体操サークルの音頭で認知症予防体操、大和朗読の会のみなさんの出演、最後は恒例の大ピンゴ大会と、盛りだくさんで大盛り上がり。2時間でした。(石田)



